

大の月、小の月を織り込んだ江戸のカレンダー?!

すみだ北斎美術館（東京都墨田区）は、2024年12月18日（水）～2025年3月2日（日）まで、企画展「読み解こう！北斎も描いた江戸のカレンダー」を開催いたします。

江戶の曆は、自由に粋な遊び心に溢れている。



江戸時代に使用していた太陰太陽曆では、現在の曆とは異なり、月の日数は30日（大の月）か29日（小の月）で、同じ月でも毎年日数が変わりました。そのため、生活の上では、その年の何月が大の月か小の月か知ることが重要でした。そこで、小さな摺物（非売品の私的な版画）に描かれた絵の中に大と小の月をしのばせて、ユーモアやウィットに富んだデザインの曆が制作されるようになりました。これが絵曆や大小と呼ばれるもので、江戸時代に大流行しました。本展では、当館が所蔵する大小を展示し、江戸時代に栄えた曆の文化の側面をご紹介します。どこに大小の月が隠されているか読み解きつつ、小品ながらアイデアと技法をこらした作品をお楽しみください。

◎会期：2024年12月18日（水）～2025年3月2日（日）

前期：12月18日（水）～2025年1月26日（日）

後期：1月28日（火）～3月2日（日）※前後期で一部展示替えを実施

◎休館日：毎週月曜日

※開館：2025年1月3日（金）、1月13日（月・祝）、2月24日（月・振休）

休館：12月29日（日）～2025年1月2日（木）、7日（火）、14日（火）、2月25日（火）

◎主催：墨田区・すみだ北斎美術館

◎会場：すみだ北斎美術館 3階企画展示室

◎開館時間：9:30～17:30（入館は17:00まで）

◎主催：墨田区・すみだ北斎美術館

◎観覧料：一般1,000円、高校生・大学生700円、65歳以上700円、中学生300円、障がい者300円、小学生以下無料

◎ホームページ：<https://hokusai-museum.jp/Edocalendar/>

●観覧日当日に限り、AURORA（常設展示室）、常設展プラスもご覧になれます。

●一般以外の料金対象者は年齢等の確認できるものをお持ちください。

●障害者手帳をご提示の方は、付添の方1名まで障がい者料金でご覧いただけます。

●前売券及びオンラインチケットの発売日・当日観覧券の発売日・販売方法や、各種割引の詳細、団体でのご来館、最新のイベント情報は公式ホームページをご覧ください。

■本展のポイント

- ◆ポイント1 ⇒当時の暦は今と異なり毎年変わるため、複雑なものでしたが、生活上必要に迫られて制作されたのが**大小**！
- ◆ポイント2 ⇒年始に友人や得意先に配る現在の年賀状のような風物詩となり、**江戸で大流行**！
- ◆ポイント3 ⇒より豪華なデザインを求め絵師に発注する事で“**粋**”な作品が多く誕生！

■構成

- ◆【第1章 大小を楽しむために】
 - ～第1節 江戸の暦～
 - ～第2節 大小のパターン～
 - ～第3節 数字以外のもので月を表す大小～
- ◆【第2章 葛飾派の大小】
- ◆【第3章 大小に挑戦】

■各章の見どころ

●●●【第1章 大小を楽しむために】●●●

日本では、明治6年(1873)の改暦以前は太陰太陽暦(旧暦)を採用していました。旧暦では大の月(30日)、小の月(29日)が毎年変わるため、大と小の月を示した絵が描かれた摺物が作られるようになりました。現在は、絵暦または大小と呼ばれています。大小は、単に数字で示すだけでなく、ユーモアを交えて制作されました。現在では馴染みのない大小を楽しむために、まずは江戸時代の暦法についてみていきます。さらに、大と小の月数の隠し方をいくつかのパターンに分類して、わかりやすく展示します。

～第1節 江戸の暦～

ここでは現在とは異なる江戸時代の暦法と、それに基づいて作られた暦を紹介します。



「伊勢暦」 個人蔵(通期)

伊勢の暦師が発行した地方暦で、伊勢神宮の御師が全国の檀家に大麻(お札)とともに配ったため、江戸時代で最も代表的な暦です。御師とは、信者のために祈禱を行ったり、参詣の際に宿泊・案内などの世話をしたりする神職のことです。冒頭にはその年の方位の吉凶や各月の大小が記されています。正月からは各日の干支や暦注と呼ばれるその日の日時や方角の吉凶が記されています。



～第2節 大小のパターン～

大小に隠された主な月の数字の隠し方にはパターンがあります。これを次の5つに分類しました。「A 文字絵の大小」、「B 文字化の大小」、「C 月数入り絵の大小」、「D 順番の大小」、「E 文中の大小」です。この5つのパターンを知れば、本展で展示されている大小が読み解きやすくなるでしょう。



絵師未詳「角大師」 すみだ北斎美術館（通期）

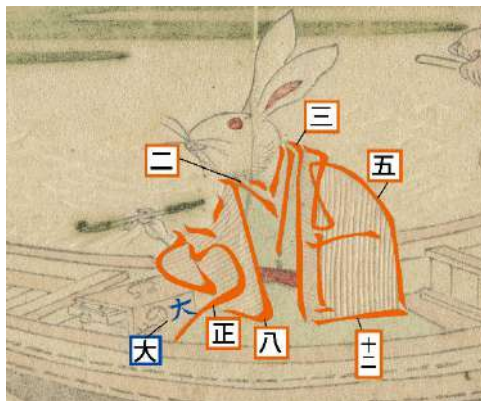
読み解き！

角大師が「正、三、五、十一、八、六」。1, 3, 5, 6, 8, 11 は、天明6年の小の月となり、「A 文字絵の大小」のパターンです。

角大師は、平安前期の天台宗の僧、良源が角の生えた鬼となった姿のことです。疫病が流行した際に、良源は人々を救うために鬼の姿となって疫病を追い払ったといわれます。そのため、角大師が描かれた護符は、疫病などの厄災除けのお守りとされました。



窪俊満「兎の猪牙舟客」 すみだ北斎美術館（後期）



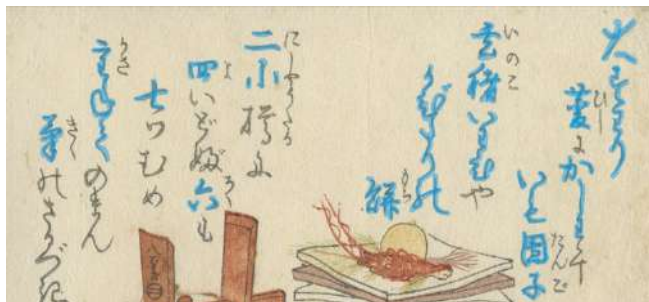
読み解き！

兎の絵。狂歌に「うさぎ」。煙草盆に「大のや」。兎の着物が「五、十二、三、二、八、十一、正」。卯年で1, 2, 3, 5, 8, 11, 12 が大の月は、文化4年丁卯【ひのとう】となり、「A 文字絵の大小」のパターンです。

窪俊満は、北尾重政の門人の浮世絵師で、狂歌や俳諧なども手掛けた多芸多才の人物として知られています。画面左上の土手の向こうに鳥居の頭だけがみえているのは、隅田川東岸の三囲神社（墨田区向島）です。

～第3節 数字以外のもので月を表す大小～

第2節で紹介した5つの大と小の月の隠し方のパターンでは、月数を数字で示すことが多いですが、数字以外で月数を示す場合もあります。睦月などの月の異称や、雛祭や端午の節句などその月を代表する行事、風物を隠し込んだ大小が作られました。現代となつては、その景物が何月を示すか難解なものも多く、これらの大小を読み解くには頭を抱えてしまうことも多いです。



絵師未詳「鏡餅と角樽」 すみだ北斎美術館（前期）

読み解き！

初めの狂歌は餅の名前で月を表わしています。「大、すわり（座り餅＝鏡餅。→正月）、菱（菱餅→雛飾りに供える。→3月）、かしわ（柏餅→端午の節句。→5月）、いも団子（芋団子→芋名月は八月十五夜の名月。→8月）、玄猪（亥子餅【いのこもち】。旧暦10月の亥の日の亥猪の際に食べる餅→10月）、いわひ（いわひ＝祝い→七五三の祝い。祝餅は七五三の際に食べるお祝いの餅か）、かびたりの餅（川浸り餅。陰暦12月1日に行う水神祭の川浸りの日につく餅。→12月）」。二首目の狂歌に「二、小、四、六、七、重ねて（7を重ねる→閏7月）、菊（菊の節句＝重陽の節季→9月）」1, 3, 5, 8, 10, 11, 12が大の月、2, 4, 6, 7, 閏7, 9が小の月は、寛政9年となり、「E 文中の大小」のパターンです。

●●●【第2章 葛飾派の大小】●●●

明和（1764-72）初期に、大小の交換会が開かれるほど大小が流行します。ユーモアやウィットのある大小の発想の考案者は、絵師ではなく制作を依頼した人物と思われるが、最終的にどのような絵で表現するかは葛飾北斎などの絵師に任せていたと考えられます。北斎は、数え90歳の生涯の中でも宗理様式の時代と呼ばれる寛政6年（1794）から文化元年（1804）頃に大小を最も多く製作しています。北斎やその一門が携わった大小を読み解きながら、その趣向をお楽しみください。



葛飾北斎「雪の朝」 すみだ北斎美術館蔵（通期）
※半期で同タイトルの作品に展示替え

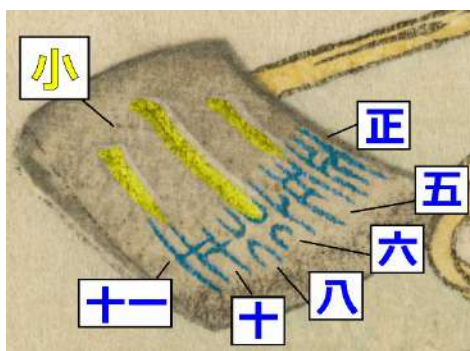


読み解き！

狂歌に「酉」。門の上に鶏。娘の帯に「十、正、三、七、九、十一、十二」。酉年で、1, 3, 7, 9, 10, 11, 12は、文化10年癸酉【みずのととり】の大の月となり、「C 月数入り絵の大小」のパターンです。



葛飾北斎「鶯と金太郎」 すみだ北斎美術館蔵（前期）



読み解き！

左の作品は、葛飾北斎「鶯と金太郎」という作品ですが、よくみると金太郎の横に置かれている鉞には「小」という文字と、刃先に「正、五、六、八、十、十一」の文字が！1, 5, 6, 8, 10, 11の小の月は、寛政11年。この年に配ったものということがわかります。「C 月数入り絵の大小」のパターンです。

【第3章 大小に挑戦】

ここまでさまざまな大小に触れてみて、どこに月数が隠されているか読み解いてみたくなってきたのではないのでしょうか。本来大小は、その年に配られるのでその年の月数を知るためのものですが、現代の私達は大小に隠された月数を読み解くことで、それが何年に制作されたものかがわかります。ぜひ、隠された月数を読み解いて、何年の大小か解き明かしてみてください。



絵師未詳「猿面と目かつら」 すみだ北斎美術館蔵（前期）

本作品は、記されているように弘化5年戊申【つちのえさる】（1848）の大小です。
申年のため、猿のお面が描かれています。本作品から弘化5年の大の月と小の月を読み解いて、以下より選んでください。

- ① 大の月 1, 3, 4, 6, 8, 12。小の月 2, 5, 7, 9, 10, 11。
- ② 大の月 2, 5, 7, 9, 10, 12。小の月 1, 3, 4, 6, 8, 11。
- ③ 大の月 2, 5, 7, 9, 10, 11。小の月 1, 3, 4, 6, 8, 12。

前期に展示していますので、答えはぜひ会場でご確認ください。

“大小に挑戦！”

■イベントのご案内

◆本展担当学芸員によるスライドトーク 作品の見どころをお伝えします。

日程：2025年1月18日（土）、2月8日（土） 14:00～14:30（開場13:30）

会場：MARUGEN100（講座室）

定員：40名（13:30から整理券配布）

料金：無料。ただし企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です。

◆講演会「浮世絵・暦の出版統制と大小暦」

講師：小田島梨乃氏（東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻比較文学比較文化研究室）

日程：2025年1月25日（土） 14:00～15:30（開場13:30）

会場：MARUGEN100（講座室）

定員：40名（13:30から整理券配布）

料金：無料。ただし企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です。

◆ワークショップ「季節のハガキを摺ってみよう」

伝統木版画の摺師の指導のもと、多色摺り木版画でグリーティングカードにも使える葉書を制作します。

講師：高橋工房 六代目 高橋由貴子氏

日程：12月21日（土） 14:00～16:00（開場 13:30）

会場：MARUGEN100（講座室）

定員：30名（13:30から整理券配布）

対象：小学生以上（小学3年生以下は、保護者同伴にてお願いします）

料金：無料。ただし企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です。

■リーフレット販売

本展の見どころをたどることができる本展オリジナルリーフレットを、12月18日（水）から発売します。

- ・価格：350円（税込）予定
- ・形態/ページ数：A4縦長8ページ（オールカラー）
- ・発売日：2024年12月18日（水）
- ・販売場所：すみだ北斎美術館1階ミュージアムショップ

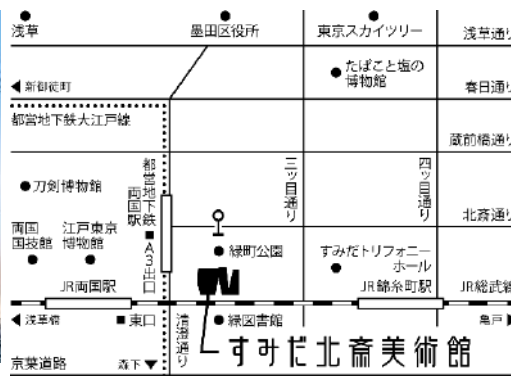
■すみだ北斎美術館オリジナル AR 撮影スポット

会場のQRコードをスマートフォンで読み取り、フォトスポットにかざすと北斎が描いた作品が飛び出す仕掛けがご覧いただけます。展覧会鑑賞とあわせ、記念撮影をお楽しみください。

- ・期間 2024年12月18日（水）～2025年3月2日（日） ※休館日を除く
 - ・会場 すみだ北斎美術館 3階ホワイト
 - ・料金 無料（ただし、企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）
- ※AR体験のインターネット通信料はお客様のご負担となります。※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

【すみだ北斎美術館について】

すみだ北斎美術館（墨田区亀沢）は、浮世絵師・葛飾北斎が生まれ、生涯のほとんどを過ごしたゆかりの地に、2016年に開館しました。開館以来、展覧会事業や教育普及事業を通して北斎の生涯や作品を発信しています。



<ご利用案内>

- ◎開館時間 9:30～17:30（入館は17:00まで）
- ◎休館日：毎週月曜日（月曜が祝日または振替休日の場合はその翌平日）、年末年始（12月29日～1月2日）
- ◎所在地 〒130-0014 東京都墨田区亀沢2-7-2
- ◎お問い合わせ 03-6658-8936（9:30～17:30 ※休館日を除く）
- ◎公式サイト <https://hokusai-museum.jp/>
- ◎アクセス：都営地下鉄大江戸線「両国駅」A3出口より徒歩5分、JR総武線「両国駅」東口より徒歩9分



報道関係の
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ
中原/長谷川/金本/加藤
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992
Email hm-pr@hokusai-museum.jp



企画展「読み解こう！北斎も描いた江戸のカレンダー」 展覧会広報用 作品画像請求紙

画像のお申込みにあたり以下の注意事項を必ずご一読いただき、全て遵守をお願いいたします。

◀ 画像貸出に関して注意事項 ▶

- ・ 画像を使用の際は、クレジット全文（作家名・作品名・所蔵先・展示期間）の表記が必須となります。
- ・ 画像は記事などで本展をご紹介いただける場合に限りご利用いただけます。
 本展の広報に関わらない出版物や映像への使用・転載、商業利用はできません。
- ・ 画像の複製・貸与・頒布・配布・販売などはお断りいたします。
- ・ 画像は全図でご掲載ください（部分図のみの使用は不可となります）。
- ・ ご使用後は、画像データの破棄をお願いいたします。
- ・ 展示作品は都合により変更することがあります。

◎ご希望の画像にチェックをお願いいたします。

- 企画展「読み解こう！北斎も描いた江戸のカレンダー」チラシ表面
- 企画展「読み解こう！北斎も描いた江戸のカレンダー」横長バナー（1366px×500px）
- 絵師未詳「角大師」 すみだ北斎美術館（通期）
- 窪俊満「兎の猪牙舟客」 すみだ北斎美術館（後期）
- 絵師未詳「鏡餅と角樽」 すみだ北斎美術館（前期）
- 葛飾北斎「雪の朝」 すみだ北斎美術館蔵（通期）※半期で同タイトルの作品に展示替え
- 葛飾北斎「鶯と金太郎」 すみだ北斎美術館（前期）
- 絵師未詳「猿面と目かつら」 すみだ北斎美術館蔵（前期）

貴社名		
貴媒体名		
部署名		(役職名)
ご芳名		
ご連絡先 TEL	FAX	E-mail
ご掲載・放送予定	月 日	※こちらは必ずご記入いただけますよう、お願い致します。
備考 ※ご要望などございましたらご記入下さい。		



報道関係の
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ
 中原/長谷川/金本/加藤
 TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992
 Email hm-pr@hokusai-museum.jp

